

【レポート】大人が学ぼう!心と体を大切に

生きるための性(生)教育～思春期編～

開催概要

2022年12月3日、清泉中学校体育館において、近藤智子先生(めぶき助産院院長)をお招きして、講演会を開催しました。多数のお申込みをいただき、当日は95名の保護者が参加してくださいました。

白井伸介市長をはじめ、御来賓21名、市内学校長、教職員の皆様にも多数ご参加いただきました。

講演内容(抜粋)

■大人たちは、性教育を習ってきていない世代だから、子どもたちへの性教育に悩んでいる
性の困りごとはタブー視され、なかったことにされている。

家庭だけ、学校だけに押し付けるのではなく、地域で協力しあえる体制になってほしい。

■性を取り巻く問題:産後うつ、中絶、性暴力・性被害、若年妊娠、若年の自殺・・・

性教育が適切になされていれば、深刻化しなかったのではというケースが多々見られる。

■なぜ性教育はハードルが高いと思われる?やましさがつきまとうのはなぜ?

→性の情報を性産業から得ているから。

日本は、性産業先進国で性教育後進国。性産業は、性的ファンタジーを商品化しているため、暴力的・支配的な性が盛り込まれているのに、それを性のお手本として取り込んでしまっている。

性産業が発信する暴力的・支配的な性がやましいだけで、性はやましくない。

性産業と性教育の間に明確な線を引くと、性教育のハードルがぐっと下がる。

日本は、コンビニやインターネットで、性産業のコンテンツにすぐアクセスできてしまう。

SNSでも、性加害者が子どもにやさしく近寄り(グルーミング)、子どもがどんどん性的に搾取されている。

なんとなく性を覚えるでは、現実には追いつけない。

■性交の3つの意味 :3つの線引きをすると、性交について話しやすくなる

1)子どもを作るため(生殖の性)

2)共に楽しく生きるため(快樂・共生の性)

3)支配するため(支配の性)

■「性」を守るためには、自己肯定感を高くおくこと

社会的自尊感情(『すごい自分』ほめられて大きくなる心:自己効力感)は、失敗したらつぶれてしまうことも。

それを底支えするのは「基本的自尊感情」(『ありのままの自分』:自己受容感)。

生きているだけで十分愛されている、ここにいていいんだなど思えること。

一緒にごはんを食べる、だっこする、笑いあう、、基本的自尊感情を育てるのは、家庭が一番できること。

どんなに知識を与えても、自分や相手を大切に伝えても、自分は無条件に大切にされている、大切にされるべき存在だという実感、自己肯定感がなければ、「性」は守れない。

■望まない性的な行為は、全て、性暴力

性暴力に遭ったら「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップセンター」に行く。

東京：性暴力救援センター・SARC 東京 (<https://sarc-tokyo.org/>)

被害者に伝えてほしいこと：「話してくれてありがとう」「あなたはちっとも悪くない」

■包括的性教育の推進の必要性

一人の「人」としての尊厳・人権を守る教育が包括的性教育。

「寝た子を起こすな」とも言われがちだが、効果のエビデンスやデータもそろっている。

性交開始年齢が遅くなる、性交渉の頻度が減る、コンドームの使用が増える 等、。

■子どもたちに性を伝える時の 3 大原則

・嘘をつかない ・ごまかさない ・否定しない。

子どもは親を悲しませたくないなので、否定すると二度と話してくれなくなる。

「なぜ？」と聞いてきた時がチャンス！信頼関係があってこそ質問してくれる。

急に質問がきたら、びっくりした気持ちをおさえて「いい質問だね」「ありがとうね」と返す。

正確に話そうと気負わず、絵本など代替りのものの活用も◎！

大切なことから逃げないで、繰り返し、何度でも。

■思春期にある子どものコミュニケーション

親や大人へのイライラや反発はある。子どもも、本当は優しくしたいと思っても、自分の意思とは関係なくイライラが起こるので、どうにもできない。

・傾聴（今ココを受け止める）・Iメッセージ ・スキンシップ、・基本的自尊感情を育てる関わり

家庭だけでは解決できない。学校や、家庭、友達の親などつながりあうと良い。

参加者からの感想（事後アンケートより抜粋 40 通の回答あり）

◆いのちの現場を知る近藤助産師から子ども達が直接講義を受ける機会を市内全校で毎年作っていただきたいと思います。

◆性(生)について本質を説いている内容で感動しました。大人から子供まで一人でも多くの市民にこの内容を伝えてほしいと強く感じました。人として生きる上で土台となる話と感じたので一日も早く義務教育で実践して頂きたいです。

他にも、今日のような性教育を実施してほしいという感想が多数届きました。

+++++

紙面ではお伝えしきれないほど、たくさんの情報や、大切なヒントをいただいた講演会でした。

参加した大人たちが、引き込まれ、涙する場面も……。

近藤先生からは、ヒントと共に、問題提起もたくさんいただきました。

家庭だけ、学校だけではなく、地域でつながりあって考えていく。

PTAもそういう地域社会の実現のために、今後も尽力したいと思います。

ありがとうございました。

主催：昭島市公立小中学校PTA協議会

（令和 4 年度会長校 清泉中学校 ・ 武蔵野小学校）

後援：昭島市教育委員会

